

農業部の主要事業

1 未来を担う人材や中核経営体の確保・育成

(1) 担い手への農地集積促進

高齢化の進展や担い手不足が深刻化する中、今後 10 年後の長門地域農業を牽引することのできる経営体の育成に向けて、集落営農法人に加え、一戸一法人等の多様な法人経営体を中核経営体と位置付け、その設立を進めました。その結果、令和元年度には、(一社)アグリながとや、(株)日置^{ひおき}が設立されました。

今後も、中核経営体の育成と農地の集積を一体的に進めます。

ア 中核経営体の育成

- ・ 一戸一法人の掘り起こし、意識啓発

＜対象：土地利用型農業の大規模経営農家＞

イ 中核経営体等への農地集積の支援

- ・ 旧市町単位に重点支援法人を設定し、経営課題の解決に向けた取組を支援

目標項目	2017年度 (基準)	2019年度 (実績)	2020年度 (目標)
農業中核経営体数 (経営体)	35	42	43
うち集落営農法人数 (法人)	24	26	28
農業の担い手の経営面積 (ha)	1,250	1,370	1,470



「農業経営の法人化セミナー」開催状況

(2) 集落営農法人連合体の育成・経営力強化

平成 29～30 年度に設立された 3 つの集落営農法人連合体（(株)長門西、(株)三隅農場、(株)アグリベンチャー俵山）の経営体質の強化に向けて事業展開を支援した結果、航空防除等の受託作業面積は順調に拡大し、水稻

育苗等の新規事業への取組も進んでいます。

今後は、連合体が持続可能な経営体となるよう、「専任従事者の確保・定着」を重点目標として、下記の取組を進めます。

ア (株)三隅農場、及び(株)アグリベンチャー俵山

- ・ 新たな候補事業の提案や候補となる人材の洗い出し
- ・ 年間を通して従事できる雇用計画の作成支援

イ (株)長門西 (1名の専任従事者を確保済み)

- ・ OJT研修による既存従事者の育成支援

目標項目	2017年度 (基準)	2019年度 (実績)	2020年度 (目標)
集落営農法人連合体数 (連合体)	2	3	3
受託作業面積の拡大	100ha	580ha	645ha
新たな事業展開	0	3	4
専任従事者の確保	0人	1人	3人



(株)長門西 専任従事者と役員

(3) 農山漁村女性リーダー・女性経営参画者の育成

長門地域の農業をリードする経営体において、経営者・経営参画者となり中心的な役割を担う女性農業者の育成に向けて、対象者の掘り起こしを行った結果、候補者4名を確保しました。

今後は、この候補者が、女性が経営に参画する上でのロールモデルとなるよう、家族経営協定の締結等を支援します。

ア ながとステキ女子会の開催

- ・ 研修会等による経営参画意欲の醸成

イ 個別訪問

- ・ 家族経営協定提案と締結に向けた支援

目標項目	2017年度 (基準)	2019年度 (実績)	2020年度 (目標)
経営体において経営参画した 女性数 (人)	13	14	15



ながとステキ女子会開催風景

2 需要に的確に応える生産力の増強

(1) 需要のある農畜産物の結びつき強化・生産拡大

① 集落営農法人の飼料用米単収向上

飼料用米は、地元養鶏農協との結びつきのもとに、136haの作付が行われておりますが、集落営農法人等の経営にとっても重要な品目です。

このため、「基準単収(496kg/10a)+60kg」を目標に、生育後期の肥培管理技術の改善に向けた実証や指導を行います。

ア 重点指導法人の設置

- ・ 作付割合が高く、低単収の4法人を重点対象として位置付け肥培管理技術の改善を実証

イ 栽培指導

- ・ 実証結果を基に、他の作付け法人等への指導を実施

目標項目	2019年度 (実績)	2020年度 (目標)
重点指導法人の 飼料用米(あきだわら)の 平均単収	基準単収 (496kg/10a) +20kg	基準単収 (496kg/10a) +60kg

② 農業中核経営体の園芸品目の作付拡大

はなっこりーは、青果用の他、市内加工業者との結びつきによる加工用として、また、キャベツは加工・業務用を主体に取組を進めて来ました。

今後は、女性・高齢者の労力活用及び年間を通じた仕事づくりの面から、農業中核経営体を対象とした作付推進を強化するとともに、目標単

収の確保を支援します。

ア 作付面積拡大

- ・ 専従者雇用法人等を対象とした作付推進の実施

イ 高品質、安定生産支援 (目標単収:はなっこりー600kg/10a以上、キャベツ 4t/10a以上)

- ・ 栽培講習会開催、実証ほ設置

目標項目	2019年度 (実績)	2020年度 (目標)
農業中核経営体の作付面積		
・ はなっこりー	232a	+15a以上
・ キャベツ	159a	+50a以上



はなっこりー一定植作業風景

③ 地域特性を踏まえたスマート農業技術の導入実証

長門地域は、棚田等の零細急傾斜水田を有するとともに、冬季寡日照条件の下にイチゴ等の園芸作物が栽培されています。

こうした条件下にあっても、省力化や収益向上(収量向上等)が可能となるよう、生産性の向上が期待できるスマート技術の導入に向けた実証を行います。

ア 中山間地水田を効率的に作業ができる技術の導入支援

(畦畔管理技術、水稻省力栽培技術 等)

- ・ 中核経営体に対応したスマート技術の導入実証

イ イチゴの施設管理技術の組立て

- ・ 実証農家の施設管理データの取りまとめ(炭酸ガス、温度等)
- ・ 部会関係者への情報提供

目標項目	2019年度 (実績)	2020年度 (目標)
新技術の導入実証数	—	1